

## 第2回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2022年7月16日(土) 10:00~12:00  
◇場 所 県立万葉文化館  
◇参加者 【現職教員】村上(平城小)  
【万葉文化館】井上、阪口、竹内  
【大学教員】加藤、及川、米田、中澤、大西 計9名

- ◇内 容 話題提供 「『万葉集』と明日香」 一万葉集の基礎知識—  
井上さやか氏

采女の 袖吹きかへす 明日香風 都を遠み いたづらに吹く  
(志貴皇子)

飛鳥浄御原宮から藤原京に都が遷ったあとに詠まれた歌

「都を遠み」と言うものの、飛鳥宮と藤原京は距離的にはとても近い  
→ 新たな社会への仕組みの変化による心理的な遠さを詠ったか  
「飛鳥」と「明日香」

「飛ぶ鳥」は褒め言葉…鳥がたくさん飛んでいる、虫や魚などの餌が  
豊富、動物が栄える豊かな国

生物多様性 陸の豊かさ → SDGsの15と重なる



わが里に 大雪降り 大原の 古りにし里に 落らまくは後 (天武天皇)

「わが飛鳥の里には大雪が降っている。お前のいる大原の古びた里に降るのはもっとあとだろうね。」

わが岡の おかみに言ひて 落らしめし 雪のくだけし そこに散りけむ (藤原夫人)

「そうではありません。この里の龍神に言いつけて降らせた雪のかけらがそちらにちらついたので。」

雪が降るのは吉兆のしるし 雪が降った喜びを即座に分ち合う夫婦の仲睦まじさ  
特に正月の雪は豊作をもたらす瑞祥とされた

「夫人」は、「ぶにん」と読む 皇后や妃の下に位置する天皇の妻

当時は一夫多妻制で通い婚

島の宮 上の池なる 放ち鳥 荒びな行きそ 君いまさずとも (作者未詳)

草壁皇子が亡くなったときに、側に仕えた舎人が詠んだ歌

二十三種ある「挽歌」のうちの一首

島の宮…島庄遺跡にあったと考えられる、もとは蘇我馬子の邸宅

立派な庭園にある人工池の中にある島 馬子は「島の大臣(おとど)」

紫は 灰指すものそ 海石榴市の 八十のちまたに 逢へる見や誰 (作者未詳)

たらちねの 母が呼ぶ名を 申さめど 路行く人を 誰と知りてか (作者未詳)

「歌垣」…男女が思いを伝えあう行事 集団お見合いのようなもの

名前を聞くことがプロポーズ

日本だけでなく、東アジアでも見られる

山の高所、川などの水辺、橋のたもと、市場などで行われていた

「紫は灰指す」…紫は最も高貴な色とされ、美しい紫色を染め出す椿の灰汁に自分をたとえている

「路行く人を誰と知りてか」…行きずりの人にどうして名前を教えてあげられましょう

様々な駆け引き 相手の心をつかむ歌をとっさに詠めるスキル

### 【万葉集と百人一首】

春過ぎて夏来にけらし白妙の 衣乾すてふ天の香具山 (持統天皇)

万葉集の歌であるにもかかわらず、平安時代には訓み方が変わっていた

持統天皇がなぜか平安衣装を着ている

(万葉集)「衣乾したり」衣が乾してある → (新古今和歌集)「衣乾すてふ」衣を乾すという想像

歌の切り方も時代が変われば違ったものに

田子の浦にうち出でてみれば白妙の 富士の高嶺に行くは降りつつ (山辺赤人)

万葉集では「雪は降りける」 赤人の名前も万葉集では「山部」

その時代にあった詠み方にアレンジしている

平安時代は想像でつくられたものが多い

### 【作者未詳歌】

4500 首余りある万葉集の約半数は作者未詳歌

古代は、貴族、役人、庶民に至るまでだれもが歌人であった

音声言語を文字として表現する段階があったはず

→ だれがつくったからというのではなく、その歌に価値があるという視点

### 【その他、意見交流】

万葉日本画を読み札にあしらった「万葉歌留多」(50 種)を以前県内の小学校に配布している

単にかかるたとして遊ぶだけでなく、様々な遊び方ができると思うのでぜひ活用を

壬申の乱を詠った歌はほぼない

災厄はあえて言葉にしない 「言霊」

万葉集の歌からは国際交流の側面が多々見られるのも、ESD としての

の学びができるよい題材

風とか、においや肌感を歌から感じられるのが万葉集

多様な見方で歌を考えられるような授業が展開できればと思う

※次回 10月29日(土)10時～ 単元構想の検討

